

農鑑

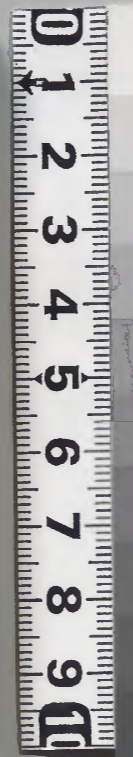
農務省 農務省 農務省
第五十號 第一冊
共九十九冊
第九十九冊

大政官文庫
和書門
一 九
二 四
三 七
四 一
五 八
六 二
七 冊
八 架

209
內閣文庫
和書
一 〇 九 四 七
二 冊
八 架

農文
內閣文庫
番號 和 10947
冊數 2 (1)
函號 182 209

182-209



糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり

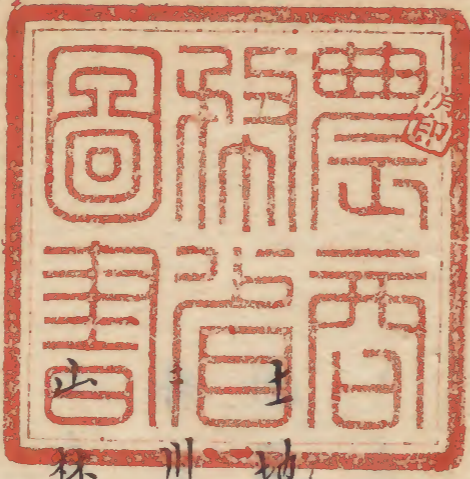
東
辰

185-508

八六号

農鑑

上



地力

地ニ五ノ名有テ五土ト云一ニ山林二
 川澤三ニ丘陵四ニ墳衍五ニ原湿ナリ
 林川ハ不及云澤ハ池沼湖ノ水類丘ハ
 土高野陵ハ大阜墳ハ水辺ノ岸衍ハトキ
 クテ平ナル所原ハ高平ニ打開タル所湿
 ハ又キクシメリ有所ヲ云此五種ノ土食
 物ノ外ノ物種々ノ物ヲ生シテ國ノ利ト
 成後世ニ是ヲ知事カタクシ綴知ラズ是ヲ

其國郡ニ行程ノ勢カナケレハ下和カ玉
ノ如ニシテ其術ヲ試事ナリカタニ五穀
ノ不生土ハ用ニ不立ト思ハ謀ナリ五穀
ヲ作り出スノミニ不限りニテモ五土ノ
内ヨリ能ク生スル物ヲ知テ其物ヲ取出
セハ人民ノ用ニ立國ノ利ト成然モ是ヲ
用テ尽ルヲナシ是ヲ無尽蔵ト云是ヲ知
テ國ニ行フヲ地力ヲ尽スト云或書ニ有
トカヤ

地面ノ發

地面ノ發ハ芝原野沼地河原海川ノ出洲
總テノ空地ヲ新田ノ新地入ニ取り立ッ
ル事ナリ國ニ艸菜ノ地多キハ其國主ノ
耻ト云ヘリ然レハ卒尔ニ事ヲ始ルハ極
テ大事ナリ多クハ古田ノ障トナル未タ
國ニ少ノ利ヲモ為サザル内ニ大ナル人
民ノ害出來ルコト有テ其利害難知ニ依
テ古人是ヲ重テ容易ニ事ヲ不始トナリ

平野廣野ハムタナル様ナ物ナレトモ常
ニハ牛馬ヲ放牧ト草ヲ刈テ田ノ糞トス
其外ノ事マテモ斟酌有ルヘシ川沢ハ水
ノ行ヲ所止ル所ニテ畢竟海ニ入ル物ナ
レハ海ヲ行間ニ窪キ所アレハ四方水ア
ツマリテ池沼湖ト成是地勢ト云モナ
リ人ノナレタル事ニアラズ天造ニテ自
然ナル物ナリ川ニハ川ノ徳有澤ニハ澤
ノ徳有沢ノ字ヲウルホスト訓テ潤沢ス

ル徳有ナリ池沼ハ旱ノ時ハ水ヲ引テ田
地ヲ養霖雨洪水ノ時ハ潦水ヲ爰ニ流住
スルヲ待物成レハ國ニナクテハ不叶物
ナリ又山ニ木アレハ必ス水有ナル故ニ
山ノ木ヲ伐尽セハ山ノ水氣尽テ山下ノ
水沢必スカルハ川沢カルレハ田ヲ作ヘ
キ様ナレ地力ヲ尽スト云事ヲ慈敷心得
テ山林ヲ伐尽サハ大咸害ヲ招クヘシ然
テ地方ヲ取扱人ハ其國其呼ノ風俗質素

カ奢侈成ルカ農業ヲ精勤スルカセザル
カ常ニ心ニ掛テ是ヲ知ルハシ國寛成ル
時ハ百姓奢發時ハ己カ事業ヲ懈ニシ能
ク諭シ教ヘシ百姓又民ハ上ヘ遠キ故ニ
疑有此故ニ上ヨリモ亦下ヲ疑フコト多
シト云ヘリ地方ヲ預カル人ハ上下疑無
キ様ニ万事入念其身ヲ懈奢ナキ様ニス
ヘシトカヤ
一新田畑ハ三四年カ間ハ百姓作取ニテ期

年ヲ過テ檢地ヲ請ケル是ヲ三年耕野ト
モ云新開ノ所年數不立内檢地入ル事所
ニ依テ甚害アリ子細ハ田ニ發タル所モ
畑ニ成ル畑ニ發タル所モ田ニ變地スル
事アリテ土地善惡三四年ニテハ不定ト
リ依之十ヶ年モ其餘モ地面ノ定不定ヲ
得テ見届テ檢地入ルハ年ヲ經テ土地ノ
勝劣ナカラント古昔ノ言傳ナリ併近世
三年ニテ檢地ヲ入ル五年程ニテ先檢地

ナ入ル事中分ナリ
一新田、内他所ヨリ入人又ハ其村附ノ昔
引請檢地濟一村ニ相立ル筋村名ノ儀綴
ハ右引請候者ノ名ハ何右衛門新田ト唱
ハ別村ニ相立候事ハ不苦ナリ何右工門
新田村又ハ新ニ何村ノ字ヲ唱候儀難成
定法ナリ然レトモ其時ノ様子ニ寄ルナ
リ難成ト計ハ定メカク近年ハ其例アリ

公儀ヨリ被仰出候新田ハ其支配ノ人
見立候ハ御物成ノ十分一御代官其身
一代被下願人其外其自今入用ニ仕立
タル新田ハ十分一其物ハ永代被下候定
法ナリ私領ノ地先ニテモ公儀ヨリ新
田ニ被仰付ハ御蔵入ニ成ルナリ尤外
ヨリ願人有之御代官見分ト通計ニテ
ハ十分一ハ不被下候取計有ルコトナリ

檢地

古田新田トモニ檢地ハ其土地一切ノ事
ヲ改ムル故ニ國主領主タリトモ私ニ入
事ヲ禁シテ得上許檢地ニハ視觀察ノ三
ツノ意ヲ含ミ有リトアラユル事ヲ眼ニ
見耳ニ聞心ヲ以テ視心ヲ心テ聽心ヲ以
テ察シ平地山地養又運送ノ自由不自由
水掛水持水吐ノ様子木蔭藪蔭山ノ立様
日請ノ次第其所并隣郷ノ根取取苗強弱
百姓ノ盛衰土地ノ善惡何レノ穀物何石

可生カトノ事未クマテ地面ノ定不定ホ
マテ諸事ヲ點檢シテアルトアラユル事
ヲ勘辨シ上中下ノ位ヲ定ムルコトニテ
畢竟老ノ一字ナリ位トハ其土地ノ高キ
ナリ地方ノ理ハ無量ナリ数年ノ功ナク
テハ及ビカタシ古ヘ國々所々ニテ運送
遠近ヲ量考高キヲ結ヒタリトミヘタリ
子細ハ上方三分一銀納ト云法アリ関東
二石五斗代ト云法アリ上方関東田畑六

分遠ト云フコトアリ田方ノ二石五斗六
分ヲ掛ケレハ畑方ノ取石壹石五斗十
ル畑方ノ四割引ニテ六分遠トナリ其外
國々ニ色々法アリト云ハ成上方關東田
畑ノ法ヲ以テ鑑時ハ遠ナシ畑方三分一
銀納ト云フ法石ニ四十八匁兩ニ壹石貳
斗五升替ト見ヘタリ關東田畑六分遠畑
方ニ貳石五斗替ト見ヘタリ先高ヲ量ニ
ハ第一遠近運送秣オ鑑事肝要ナリ是レ

軍役騎馬積年貢諸當ノ元ナルヘシ然テ
高ヲ結ニハ六分遠ヲ考高百石内五十石
ハ田方又五十石ハ畑方トシテ物成田畑
トモニ五ッ成トシテ上方畑方ハ三分一
銀納ト云關東ハ畑方二石五斗替ト云法
ヲ以テ縱ハ田計ノ地ナリトモ畑斗ノ地
ナリトモ田半分畑半分ト積ルナリ永貫
積ノ法是又同然ナルヘシ永二十貫ノ地
ノ内田方十貫畑方十貫トテ田畑等分ニ

テ四割替ヲ以テ積ナリ是ヲ二十貫百石
ト云然レハ上方関東ニ不限國々所々田
畑山野ナリトモ高ニ結フ時ハ田半分畑
半分ト可結儀ナリ物成モ其如クナリ二
石五斗替ナ元ニテ永十貫文ヲ四割平石
二十五石トナリ是ヲ五ツ物成ニテ五十
石トナル二十貫ニテハ百石則チ是ヲ四
割替ナリト古老ノ言傳ハナリ或家ノ聞
書ニ見ヘタリ一丈一石代是ヲ中ノ盛ト

云十所百石是ナリ土地ノ位不陸ナルハ
末々ニ至テ所々國主モ衰微ノ基ニテ甚
々害ニナルナリ其所ハ上役下役下モニ
立合評議スヘキ事勿論ナリ檢地一手ノ
人数竿取四人位見二人目付一人帳付二
人見當見二人但見當ノ竿持百姓役ナリ
田畑トモニ三畔限リニ一ヨリ十五六七
八ヲテモ番付為致帳面ニ記サセ百姓方
ヨリ是ヲ取り其場毎ニ引合考ノ百姓ノ

記ス所ニ役人ノ考ニ遠ヒナクハ縦ハ一
ヨリ三マテハ上田四ヨリ六ハ中田七ヨ
リ十マテ下田トカ評議シテ極ムル百姓
ヨリ番付ヲ為書出候事不功者ノ様ナレ
トモ百姓ノ正路ヲモ考フルニ便アリ一
歩ニ一升アレハ一丈歩ニ三石アリ是
ヲ五分摺ニシテ米一石五斗ナリ是レ則
チ十五ノ盛ト見ルナリ段別ニ石盛ヲ掛
ケ高何百石何十何石何斗何升何合何夕

何才トマテハ通用ノ数ナレトモ四十五
入ト究ム縦令ハ一合四夕アル時ハ四夕
ヲ捨テ一合五夕アレハ二合ト記シ其年
ノ改メ新田等免状ニ載スルニモ合切ニ
可致一國一郡ノ寄ヘ夕才付廻リテ書物
見苦敷モノナリ中田下田山田砂田ボノ
段間大概ニ斗三升或ハ一斗下ナリ勿論
土地ノ善惡ニ依テ八九段十段餘ニモ究
ムルナリ又上ニ田間田麻田ハ上田ヨリ

一斗高ニモ立ル之ニ依テ間麻ガ賣捌氏
運上ハ之レナキナリ緞ハ十五ノ盛ニ決
定シテモ土地ノ様子次第十六七又ハ十
三四ニモ極ムルナリ上畑ハ中田ノ並屋
敷ハ上畑並ナリ又屋敷ハ雨落ヨリ雨落
マテ竿ト云説アリ大ナル謬リナリ

一檢地ノ竿一間六尺一分ナリ二間ノ丈尺
一丈二尺二分ノ定法ナリ水繩ハ麻三ツ
線少シモハラナク為索水澁ヲ引雨降ニ

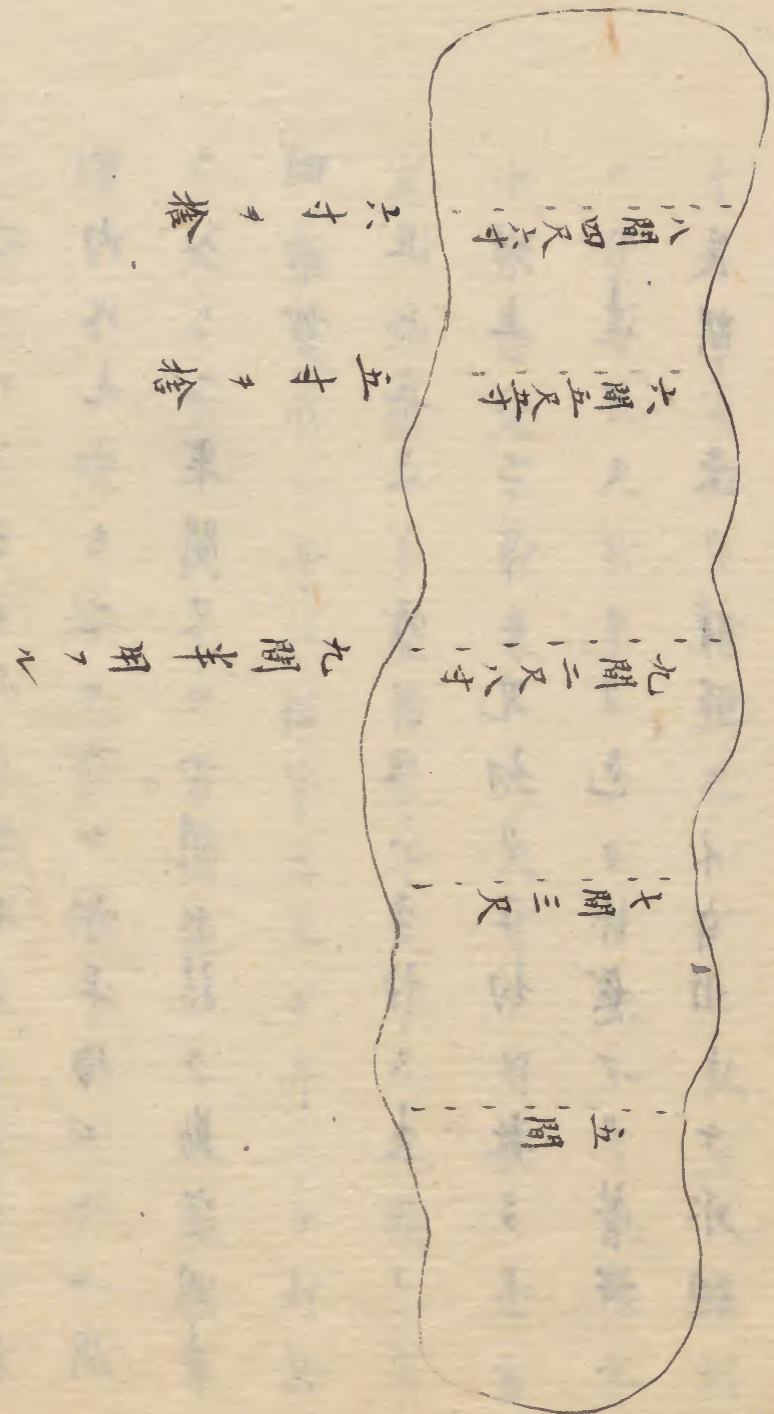
ハ間竿ニ當ル長三十尋五十尋カ百間程
ニモテ一間カ五間カ十間目程ツ、ニ觀
世綺ヲナ以テマゼル印ニ付クハシ木札
ハ少キカ吉ニ間毎ニ付テハカタリテ懸
シ大法如此ナレトモ時宜ニ寄ルヘシ世
上ニテ古ハ六尺三寸或ハ六尺五寸竿ニ
テ一反モ三百六十步採ト俗説ニ云ナレ
トモ其證據之レナキコト、由去リナカ
ラ昔六尺三寸ニテ打テ候所稀ニハ之レ

アリ上方筋五幾内辺ハ京間トテ六尺三
寸ノ竿ヲ以テ檢地之レアル故今又歩刈
ノ竿モ六尺三寸ナリトモ云ヘリ文祿年
中承應延宝以來ハ六尺竿ヲ用來ル由古
老ノ物語ナリ豎横竿十文字ノ見積二竿
ニ難成形ノ呼ハ横竿二三ヶ呼ニテ打捨
ト入ルトノ訳ニテ歩結極ハル又横間平
均ニ寸ヲ堅ク捨テサル様ニ可致去リナ
カラ寸ヲモ平均シテ積竿毎ニ用フル儀

ハ之レナク三ヶ呼平均時二ヶ呼寸ヲ捨
テ内八九寸モ之レアル所平均ニハ一間
ニ入レ二半間又ハ一間ニ詰ル勘定用事
回ノ如シ

但シ五六ヶ呼マテハ平均ス夫レヨリ
以上ハ二竿ニ見切り平均ノ数多ケレ
ハ遠フモノナリ色々作意アリ管繩ハ
長間ハ重リ持運々不自由ニテ取廻シ
ナリカタニ間数ニ了簡アルヘシ

山崩レ川穴ケニテ末々地檢ニ成ルハキ
 カ切添押出シニテ次第ニ地廣ニ成ルハ
 キハ考ヘ末々繩詰リニ成ラハル様ニ尤
 モ古檢ヲ見合セ道代畔代畑境ボマテ宜
 ク考ヘ之ヲ引キ勘辨スヘシ一村段別寄
 入時綴ハ上一所歩程中二所歩程下三所
 歩程下々四所歩程ト出候様致度モノナ
 リ然レ尺拵物ノ様ニ之レナク百姓一人
 前モ位負之レナキ様ニアリタレ所ニヨ



リ本田畑、外杉田柳田櫻田桃田菽田芦
田芝田トテ山方野付之レアル土地惣敷
キ故本作ノ外ニ仕立ニ三年ニ一又ツ
モ切出スナリ是ハ年貢モ劣ル此外切替
ヘ畑荒畑杯ト之レアル茨茅生ル地面沢
山ニアル故休々作りテ年替々ニ仕付
ケル故野帳ニ付誤見取塲ニ極ル桑漆ハ
枝木ボノ色成ノ類モ野帳ニ記シオキ年
貢ノ相談アルヘシ畑境ニハ桃櫻植ルコ

トアル野方ノ黒土ノ所ニハ茶ノ木ヲ植
ウヘシ杉松竹ノ類ハ其地續ヲ見合セテ
植ウヘシ皆呼ニヨルナリ畑近所木ノ茂
リヲ嫌イ桃櫻ハ葉ノ落ルモノ故苦シカ
ラストモ先ハ不植コトノヨシ植テモ心
得アルヘシ
野帳ノ仕様ハ横帳ニテ紙ノ折目ヲ向ヘ
テ野山ニテ風不吹立様ニテ片面ニ六通
ツ、毛ヲ引記帳筆数及別ボニ能キ様ニ

認ムルナリ

一 小中筋ナト年久ク檢地ニテ段別知レサ
ル永百文畑ナト過年貢出来候場所ハ此
畑ヨリ永何程納メ来ルト云畑ヲ打立一
文永何程ニ當ルト云コトヲ考ヘ田ノ永
モ四ニテ割り石ニ直シ何斗取ト知ル檢
地ノ筋屋敷敷代引ト云コトアル由近年
ハ不致事ナリ又大屋敷ヲ望ムコトアリ
収納家廣造故望ニ次第ニ打ナリ近世ハ

廣キハ望マザルナリ屋敷ハ中畑ノ位ヘ
入ルモノ故事ニヨリ年貢ニ負ルヲ以テ
廣キヲ望マザルナリ

一 眞土ハ色白ネバリアリ畑作ハ日ニヤケ
ズ田ハ水濁リ色モ白ク諸作トモニ能ク
出来實入モ能キナリ黒眞土ハ色少シ黄
ガ、リ小石交リニテ小石ニ土ノ能クク
ルニ付ク所ハ諸作トモニ能ク出来麻ナ
ドハ一入ヨシ石大ク少シノ雨ニモ洗ヒ

出ス所ハ日ニマケ惡シ土ニネバリアリ
テ地ノシメリタルハ上ナリネバリナク
灰ニ水ヲ掛タル如クナルハ下ナリ土重
キハ上輕キハ下ナリ小石マジリテネバ
リ少キハ日ニマケ申ナリ山野付ハ灰土
ニテ而ルヲヒナク肥ノ弊バカリニテ風
ニマケ下ナリ長谷通流レ續ノ居込ニ沼
ノ仕立ナドニハ野付ニテモ上々ノ地ア
ルナリ然シナカラ一郷一村ノ内ニサハ

善惡アルナレハ書物ノ上ニテハ知リカ
クク却テ迷々ノ元ナラン能ク勘辨スハ
シ尤モ冬春ノ内草生之レナキ節モ土地
ノ善惡ヲ見分ルコトナリ野山ノ年貢役
錢ボハ艸木ノ多少ニ應シ其反ニ何程ト
極ハル又ハ廣狭ヲ見積リ何程ノ場ヨリ
何ホドト大積ニテ極ムルコトアリ尤モ
百姓ト相對ハ格別檢地ノ時ナラテハ増
減ヲセサル法ナリ

一 鹽畑ハ日アタリ能ク早ク乾ヲ上トシ遅ク乾ハ下ナリ功者ノ見分ニ足駄ヲハキ又杖ヲ突ク土地ノ乾キノ遅速ヲ考ヘテ上下ヲ定ムルヨシ古老ノ言傳ヘナリ鹽畑ハ第一ニ真水ノサ、又所ヲ上トス是ハ別ニ其所ノ古老ニ尋テ極ヘシ口傳アリ

一 私領ナド檢地并地押ホニテ高何程減シテモ從公儀御足高渡リ候トハ之レ

ナク尤モ何程增高出来候トモ公儀ヨリ御構之レナク候事

一 三草ハ麻木綿藍又蘭紅花多葉粉ナリ四木ハ桑楮木漆茶ナリ四木ハ畑ノ畔ニ植テモ其畑ノ作毛ヨリ徳用アルモ、故高ニモ入ルナリ然レ氏古來ヨリ高ニ入来ル所ハ格別新規高ニ入ル事ハ大体四木作ル分ニテハ高ニ入レ難ク小物成ニテ置クナリ大分手間掛ルモ、故其村ノ三

分一モ五分一モカセキニナルハ高ニ結
フハシサモナキハ相應ノ役錢可申付四
木ヲ高結積ハ桑楮木漆ハ三尺ニ切三尺
繩結ヲ一丸ト云十九ヲ一束ト積ル高ノ
付様ハ一束ヲ高一升ニ入レ一丸ヲ一合
ト結入ル半丸マテハ用下ハ捨ツル閑束
筋大畧此ノ如シ束ニモギ桑アリ切桑ア
リ漆ニ切漆アリ立木漆アリ楮ハ何レモ
切立ル束積ハ何モ見積ニテ大積ナリ但

シ漆所ニヨリ過半善惡ノ遠トコレアル
故永何程ノ積リ永一貫文ニ五石替ニシ
テ高ニモ入ルコトナリ漆ノ儀ハ其呼ヨ
リ見分聞合セ吟味勘辨ノ上極ハルコト
ナリ高ニ不入役錢ナド云テ年貢取様モ
アリ茶麻畑杯ノ格ニ其村ノ上畑ヨリ一
段高上ノ畑ヨリモ石盛ニツ三ツモ高ク
結ト入レ茶ノ善惡其呼ノ様子次第ナリ
高ニ不入茶役錢申付候事ナリ然テ新規

三四木ヲ高ニ結候儀ハ段々詮儀六ヶ教
コトニテ容易ニハ成リ難タカルヘシ其
本ヲ知サレハ末ヲ知ルコトカクニ何テ
檢地ノ事明ケス

新古檢地御條目

一 今度何國ノ内村々檢地入レ候ニ付然テ
奉行并ニ下役人竿取ホマテ堅ク誓紙可
仕候田畑位付正路繩目無延縮様ニ隨テ
分入念且又百姓費之レナク作毛不踏荒

様ニ可申付事

一 檢地案内ノ者ノ儀ハ其村名主ニテモ年
寄ニテモ百姓又ハ小百姓ノ内ニテモ吟
味ノ上五人モ申付ノ事シノ所ニテモ
地面引落間敷旨并ニ繩手ノ者召仕ホマ
テ若シ非儀之レアラハ早速總奉行所へ
可訴ノ旨案内ノ者誓詞前書ニ可為書付
事

一 間竿ノ儀六尺一間ノ積二間竿タルヘシ

但シ一間ニ一方宛右へ来リ候條長一丈
二尺二分竿ヲ以テ打へシ方論一丈三百
坪タルヘキ事

一此度檢地ノ儀半間マテニテ尺寸打ニ不
可及然リト雖凡田畑豎横ノ廣狭ニ隨ヒ
或ハ平均間オ致候所ハ尺マテハ用步詰
ノ勘定ニ入ノ豎横ノ間數手帳ニ書付候
ニハ半間マテ記ノ野帳ニハ見積リノ間
積ノ儀斷書致シ業内者并ニ地主ニ右ノ

旨可申渡事

附步詰ノ儀ハ四重餘マテハ之ヲ捨テ
五重ヨリ一步ニ可入事

一檢地可入村へ繩手ノ者相越シ古檢地ノ
所步耕地切ニ步立帳面ニ之ヲ記シ業内
ノ者召連レ地所村境大通遂見分致繩初
候心得ニ成候様可仕事

一田畑位付ノ儀大方上中下三段ニ候此度
ハ吟味ノ上地面取分能キ所ハ上々田又

ハ所ニヨリ間田麻田オ之レアルハ一段
立之右盛ハ上ヨリ一斗高ニテ相極ノ意
地之レアル所ハ下々田或ハ山田砂田谷
田段々立之下ハ一斗或ハ二斗三斗ニテ
相考ヘ右盛ヲ下可相極畑ノ儀上々畑麻
畑茶畑下々畑小畑焼畑砂畑其外ニテ所
々ヨリ見計段々立之右盛地面ニ應シ了
簡アルヘシ屋敷ハ古来ヨリ上畑並ニ候
間右盛上畑同ニ事タルヘシ右盛大方ニ

段ノ間ニツ下リニ候ハ氏土地ニヨリ二
ツ下リニ限ル間敷候間地面相應ニ詮儀
アルヘシ但位付ノ儀其村ノ案内申付候
百姓ニ為致誓紙候以後田畑ト云ニ古檢
ノ位ニ攝ハラス一二付ノ位所ニヨリ一
ヨリ十五六マテ段々為付帳面之ヲ取り
檢地役人ノ見分ト引合ヤ遂吟味上中下
位可相極候事
附百姓居屋敷田ノ儀四方ニテ一間通

リ除クヘシ其外ハ竹木有無ニ構ハラス
竿可入之但間五六間マテノ小屋敷又
ハ軒並ノ隣屋敷境垣一重ノ所ニハ四
方一間マテ不及除見計其屋敷相應ニ
可除之且又古檢ノ外新屋敷或ハ地所
惡シク候トモ居屋敷ハ其所ノ上畑並
タルハク并ニ若シ新規ニ屋敷願候者
之レアヲハ吟味ノ上右心得ヲ以テ屋
敷ニ可打渡勿論畑ニ不致置早速屋敷

ニ仕立候様手形可申付事

- 一畑方檢地ノ儀畑ノ廻リ漆素楮木之レア
ヲハ其段書付ニ記シ可相窺事
- 一田畑石盛位舟ノ儀其所ノ取箇五々年平
均書記シ可相伺事
- 一檢地ノ時間數野帳ニ記シ候跡其場所ニ
於テ間遠竿ノ延縮之レアルヤ入念時々
致置竿又ハ管繩ヲ以テ可相攻勿論相定
竿取ノ者ノ外一切不可相交事

附毎日致檢地候野帳、儀役人押切印
形ヲ加へ百姓ニ借り置キ若シ竿透書
誤リ又ハ位付オニモ相違之レアルカ
百姓ニ相尋テ訴訟、旨之レアリハ帳
面ニ致付紙申出候様ニ仕詮儀、上再
ヒ見分、上百姓申旨尤ニ候ハ、可直
之勿論難立儀申出間敷旨堅ク申渡シ
置クハシ田畑字名付是又相違無之様
ニ明細ニ水帳ニ可記置事

一 寺社領入組、村檢地、儀地境分明、所
ハ寺社領へ一切竿不可入若シ境目不
明ニ付竿入候ハデ不叶所ハ檢地ニテ致
吟味寺社領ノ分出歩之レアリ候トモ其
通ニ可差置事
附御料、内小物成場之レアリテ他領
ヨリ入會候ハ尺段別オ不分明ノ所致
檢地水帳ニ可書載事
一 御朱印地、外地寺社領又ハ前々ヨリ除

一 未候場所或ハ堂宮免田畑閑守渡守ト
給田畑ト儀古水帳、未高、外書ニ
記シ之レアリ又ハ慥ナル證文之レアリ
ト雖氏委細覺書ニ記シ御勘定所ハ可得
下知并ニ百姓居屋敷或ハ立山竹木林除
キ来候分之レアラハ是又右同所、事
一 御料私領寺社領田畑入組ノ所ハ双方ノ
百姓立會致檢地可然所ハ其旨申通シ立
會ノ上可致檢地然テ入組、場所ハ境目

ニ 障示為立申分無之様ニ可仕事
附隣村、入組境目不正所之レアラハ
双方ノ百姓註議ヲ遂ケ地境亂ノ申分
無之旨手形取ルヘシ若シ落著難仕所
之レアラハ檢地仕廻候以後繪圖覺書
ヲ以テ相伺可究事
一 永荒場川欠ケ山崩レ才之レアル所ハ見
分、上可立返場所ハ田畑ニ成候様相應
ノ位付致シ高ニ結ヒ註議ノ上先地主又

ハ外ノ者ニナリトモ可申付立返間敷分
ハ能ク々々吟味ノ上水帳ノ末外書ニ可
歩可記置候事

附総テ見取場ノ分檢地入高ニ可入若
シ高ニ入レガタキ場所之レアリ候ハ
ハ吟味ノ上重テ可相回事

一御年貢米詰置候蔵屋敷并宰屋敷ノ儀前
々ヨリ高ニ入候所ハ勿論高外ニ致置候
分ハ高ニ入レ宰之レアル内ハ御年貢可

際之事

一野手山手ノ場并ニ山林之レアル所ハ檢
地致シ水帳ノ末ニ委細可記之雖然或ハ
大山嶮垣場廣山ニテ境目分明ノ所ハ檢
地及フベカラズ若シ地境一回難知檢地
入可然所ハ格別ノ事
附野手山手ノ場所所步此度打出之
レアルカ又ハ野山錢才増申付可然所
ハ地所ハ地所相考ハ御代官ハ相談ノ

上増年貢可申付事

一 百姓林ノ儀年貢申付可然儀候間少分ノ
所タリト天輕キ年貢可申付事

一 田畑ノ内ニ之レアル大石大木其外作毛
仕付難成不能々吟味ノ上其分檢地可除
事

一 池沼野原木之レアリテ新築ニ可成分ハ
遂吟味百姓相對致サ七續請高ニ可入ノ
新築ニ相成分ハ水帳ノ末外書ニ所步書

ツケ可置事

附堂宮并殿在野稻干場土平場或ハ廟
所古塚死馬捨場木高ニ難成分段別段
之是又水帳ノ末外書ニ可記置堂宮敷
地計リ之ヲ除キ廻リノ地ハ高ニ入可
然分ハ見計高可結古檢地ノ内ニ記ニ
置候堤并ニ用水ノ井筋木ニ成候場所
致檢地水帳ニ以前ノ通り書付オウハ
ニ右ノ類古帳ニ之レトキ分ハ新檢地

不及書載事

一 片山ニ之レアル田畑地面急敷以来段々
可欠荒地場所タリト云ト有段歩ノ通
可致檢地事

一 然テ田畑廻リ堀田之レアラハ詮議ヲ遂
ケ本歩ノ内へ入歩ニ致シ水帳ニ記スヘ
キ事

一 田畑ノ中ニ道付替度旨百姓願候所之レ
アラハ見分吟味ノ上障リ之レナキ者可

申付事

一 家抱地水帳ニ名記候儀地主詮議ヲ遂ケ
誰家抱ト肩書ニ可記之次ニ小作百姓名
水帳ニ若シ記シ候儀之レアラハ置又地
主ニ詮議ノ上手形取ノ分附ノ肩書可致
置事

一 檢地役人村移ノ儀然テ奉行へ得差廻次
ノ村へ祭ルベシ勘定仕候節役人ノ外其
場へ出入一切可為得止事

一 田畑ニ致置田年貢出来此度畑ニ緩請
度旨願候ハ、吟味ヲ遂ケ手形取ノ畑ニ
可申付并ニ新堀新堤新道ヲ致シ可然場
所之レアリテ此度敷地除キ置度旨願候
ハ、能ク々々吟味ヲ遂ケ御代官へ相談
ノ上右ノ通り申付可然候ハ、可得下知
事

一新檢水帳ノ肩書ニ古檢不及記候別紙帳
面ニ新古高段別増減ノ訣并ニ引高起返

一 新田畑改出ホ然歩計リ記シ可差出事
一 檢地仕廻リ候以後緩手ノ者下クホマテ
對百姓非儀ナル事致シ候者マフルヤ然
奉行ノ者其村ノ百姓へ能ク々々可致註
儀事

一 水帳相極候ハ、檢地奉行下役竿取案内
ノ者マテ奥書致印形御代官へ相達シ村
々名主方へ右ノ水帳渡シ置之本書ノ通
リ寫帳認メ御代官へ可相渡事

右ノ條々得其意存寄、儀於有之ハ可得
下知候以上

年号月日

新田塲檢地條目

一此條目ハ享保十一年、御條目ニ候別
帳ニ寫有之故爰ニ不記之此條目ニ付檢
地方ヨリ伺ノ由ヲテ別帳ニ委シク有之
候

一間敷、端ハ但六尺一間ノ割ヲ以テ六寸

ハ一分十リ

六寸 一尺二寸 一尺八寸 二

尺四寸 三尺 三尺六寸 四尺

二寸 四尺八寸 五尺四寸

右ノ寸尺ニ不足ノ分ハ之ヲ捨テ算用ノ

步詰一步ハ捨テ二分ハ一步ハ加ハ三步

ト檢地帳面ハ記シ候事

綴令ハ長十四間三尺二寸 此二寸捨
横十一間五尺三寸 此寸ニ一寸加

此段別五畝二十二分七厘

右端尺六ノ法ニ合候時ハ左ノ通

長十四間三尺

横十一間五尺四寸

此段別五畝二十二分五厘餘

此又別五畝二十二步五厘餘ノ内一分

五厘餘ヲ捨テ換地帳面ハ左ノ通り

之ヲ記ス

一田 長十四間三尺
横十一間五尺四寸

此端步二十一歩ヲ三ニ

割七方詰リ不尽無之故

右端ヲ掛候節分米ニ何

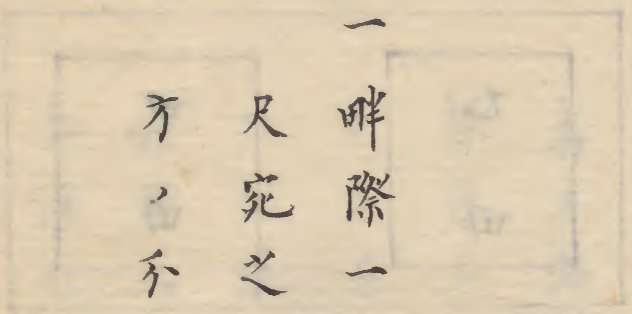
合限ニテ夕才出不申

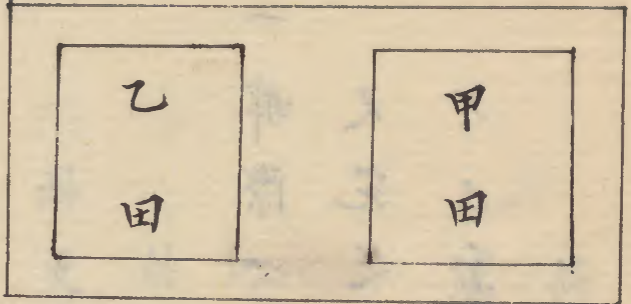
此畝五畝廿一步

一畔際一尺宛除クヘク但ニ類地ニ畔際一

尺宛之ヲ引ク依畔アセ際除キ候ト一

方ノ不一尺五寸以テ事





此畔幅一尺ハ有来リ畔ニテ左
 右畔際一尺ツ、之ヲ除ク甲乙
 都合畔幅三尺ニ成候積リ甲ヨ
 リ一尺五寸乙ヨリ一尺五寸宛
 ノ積ニ候但シ有来リ畔無之不
 ハ右ニ准シ左右畔幅三尺ノ積

兼應 延寶 檢地心得

一 鄉村ノ能成ニ惡シク成ニ百姓ノ身上能

成ニ惡シク成ニ檢地ノ仕様ナルヘシ只
 今ノ檢地ニテ五十年モ百年モ又ハ三百
 年モ五百年モ後ノ未代マテモ此水帳ニ
 高ヲ結年貢役オマテ可積然ハ檢地ノ仕
 様惡シク綴令一段三百歩ノ物ヲ間遠ニ
 テ二百七八十歩モ有之様ニ綴ヲ入レ又
 ハ上中下ノ位遠年貢不逞ノ時ハ其作百
 姓身上潰レ候其跡ヲ又請取作ル者モ身
 上潰レ候未ママテ教人ノ百姓身上潰レ

其一類ノ者怨迷惑仕其報天罰ノ程不可
 勝計然ハ緩折ハ大事ノモノナリ因テ茲
 ニ檢地ノ有増記之
 一緩折一組ニ大体四人ツ、ノモノナリ因
 其頭ヲスル者檢地ノ仕様不鍛鍊ニテハ
 萬差引成ラサルモノナリ
 一鄉村ヲ請取其村へ入先境ヲ見廻高何百
 石ノ所畑屋敷トモ何十所之レアリト大
 積ヲ見分致ニ扱又上中下ノ場所ヲ入念

見分仕緩ヲ打ツモノナリ
 一上中下ノ位ヲ付候土ノ見様毛ノ上ニテ
 ノ見様屋敷廻リ又ハ野田山田色々功者
 ノ入事ナリ屋敷廻リニ下田アリ野マ々
 郷ハツレニ天上田アリ此段書面ニ認メ
 カクニ
 一上中下ノ位ヲ付候ニ頭ノ心持段々之レ
 アリ先跡々ノ上中下ノ反帳ヲ書立令度
 上中下ノ反帳トハ何程出候カ又ハ引込

候トカ大積ヲ勘定致シ扱眼カヲ以テ見
分ト引合セ考フヘシ上中下ノ位ヲ附候
カ大体ナリ然ハ諸々ノ上中下ノ位ヨリ
多クモ可有之又跡々ノ上中下ノ位ヨリ
引込モ可有之此時ハ頭取并ニ竿取ニモ
相談致シ吟味ヲ遂ケ正路ニ仕儀肝要ナ
リ此詮議ナレニ上中下ノ位ヲ附ケ高過
分ニ出候カ又ハ過分ニ引込候時帳奉行
方ヨリ穿鑿ニ逢ヒ行當リ迷惑仕事可有

之畢竟頭ノ分別又ハ功首入事ナリ

一上中下ノ位其外何事ニテモ一組ノ中ニ
テモ論議之レアル時ハ近所ノ緞打衆ト
心置ナク相談致シ以来百姓迷惑不仕様
ニ慈悲モ之レアリテ詮議ヲ結ヒ正路ニ
相極可然事

一上中下位ヲ付候ニ用水場ノ田ト旱損場
ノ田ト此訣ヲ以上中下ノ位然ルベキナ
リ緞ト旱損ノ田雨續キ候時ハ毛ノ上能

出来候之ノナリ用水場ノ田雨シケキ年
ハ田冷候テ出来意シクモ可有之是モ考
ニ入事ナリ
一 下田モ能ク作人コヘヲ多ク入レ草ヲ能
ク取り苗ヲ植ヘ能ク種ヲ蒔候ヘハ上
田ノ如ク能ク作毛ニ作ルモノナリ又ハ
上田モ肥ヲ不入草ヲ不取鋤ヲモ細ク
ニ不仕苗種物ノ意シキヲ植ヘ候得ハ能ク
作毛意シキモノナリ然ラハ毛上ニテモ

上中下ノ位不分明候間ケ様ナル見不功
者入事ナリ
一 頭取并ニ竿取功者ナル者ニテ能者計ハ
之レナキモノニ候不功者ナル者ハ功者
ナル者ニ能ク々々聞入又ハ百姓ナリト
モ誰ニナリトモ檢地ノ仕様能ク聞ヘ候
テ繩ヲ折テ候カ能ク々々不功者ニテ功
者ブリヲ仕繩ヲ入候ニ付殊ノ外檢地ヲ
緩カニ打モアリ又ハ殊ノ外切詰強打百

姓迷惑仕候様繩ヲ入レルアリ此考ハ中
々書面ニ認メカタシ
一 繩ヲ打テ候ニ朝ト晩ト又風雨ノ時ハ深
田淺田ノ所々積ノ上ト土田ト段々打様
之レアリ
一 山田湖入田野ハツレ地姓ノ惑シキ田地
ハ竿入朝少シ弛ヤカニ打ツモノナリ上
田又ハ屋敷廻リノ如ク切詰テ強ク打テ
候テハ作人迷惑仕モノナリ急敷田畑ヲ

ハ立歸リノ両方ヨリ見分ニテ竿入能物
ナリ
一 田畑ニヨリ長キ所打テ候テハ何十間ト
呼ハルノ時ハ聞遠ト又ハ帳ノ付ケ遠ト
之レアルモノナリ間敷帳ニ書付ル時二
度モ三度モ能クカク聞届可付事
一 豎繩ハ少シばかり遠ト候テモ苦シカラ
ス候横繩ハ少シ遠トモ長ニヨリ過分
ノ遠ニナルモノナリ然ル上横繩ハ其一

組ノ頭カ功者ナルモノ打ツモノナリ竿
ノ打様惡シク候ハハ過分ニ遠クアリ殊
ニ初心ノ竿取ノ時ハ跡ヨリ又ツキ竿ニ
テ改メ又ハ田畑打仕廻リ宿ヘ歸リ候テ
少シモ障リ之レアルニ於テハ初心ナル
竿取ヲハ幾度モ五十間六十間ノ場ヲ打
タセ次竿ニテ改メ吟味仕候ハハ日數ヲ
重テ右ノ註儀ニテ初心ナル竿取モ後ニ
ハ功者ニナル遠ハサルモノナリ萬事頭

ノ心入註儀吟味肝要ナリ一日ニ二三度
程モ次竿ヲ致改遠ク無之様ニ大事ニ致
可入急事

一何事ニモ入事ニ候ハ氏中ニモ檢地ノ時
腹不立行ヲ仕可然ナリ腹ヲ立候テ纒ヲ
打テ候ハハ殊ノ外過不足ノ遠ク可有之
此段ハ書面難認口傳アリ腹立候テハ心
モ混亂致シ遠ク可有之儀ハ面々可有之
事

一 公儀ヨリノ檢地ハ正路ナル儀第一ナリ
其工諸給人ノ手本ニナルモノニ候間成
程入念繩打可被申付下クノ百姓ニ何ニ
テモ非儀成事不申掛面々割并ニ諸法度
ノ通相慎肝要ナリ
一名主并ニ宿杯ノ田畑ヲハ緩カニ打者有
之又ハ小口ヲモキ、面ラクヤ急シク小
百姓杯ノ田畑ヲハ強ク打者可有之是頭
ノ示ニ肝要ナリ

一 繩打ヲ急リ候ハ必ス遠々之レアルモ
ノナリイカニモ静ニ心ヲ寛ニ相人ヨリ
モ綴々一日二日遅打仕廻リ候テモ大切
ハ檢地ニ候間成程可被入念事
一 野帳ニ上中下ヲ付候時心覺ヲ致シ一郷
トメヲ仕候時上多キ時ハ中ニ直シ下少
キ時ハ中ヲ下ニ直シ野帳ヲ以テ差引仕
候様心覺可然候左ナクテハ一郷ノメ仕
候時行當ル事可有之候是ハ大事ニ存シ

心ヲ附ト不附ト入念ト不念ト二ツナリ
萬事頭ノ分別肝要ナリ
一 纒ヲ入檢地仕候ハ、田畑廣狭モナク上
中下ノ位遠ハサル様ニ扱又一郷ノ百姓
年貢役ヲモ損失ナク萬正路ニ可有之夕
メナリ然ル所ニ不功者ノ纒打カ又ハ奢
怒無慈悲ナル人カ氣アラナル人カ其上
不入念百姓難儀鄉村モ悉シクナル様ニ
檢地候ハハ沙汰ノ限り候事

一 檢地不時ハ末代ノ為ニ候間道堀ノ狭キ
ヲ少廣仕度ナドト申并ニ曲リタル道川
ヲ直ニ仕度ト所ノ名主訴訟申者之レア
ルニ於テハ穿鑿ヲ遂ケ其外竿ヲ除クモ
ナリ
一 旱損場有之ヲ溜池仕度ト申候由又ハ水
入場有之所落場川除ナド有之所ハ見分
ノ上詮議所ノ代官手代以來無相遠様急
度申渡モナリ

一 序下リ、畑中ニモ北向杯ハ立毛出来兼
申モノニ候間上場ナリトモ中下ニ仕モ
ノナリ但シ所ニヨルヘシ
一 上中下ノ位付ニ真土ト野土ト砂地ト段
々功者ノ入事ナリ高ノミソリ畑ト又ヒ
クキ呼ノ湿地ト心持アルコトナリ
一 田ノ中ノ嶋畑肥計リ引人足ノ通りモ急
シク作毛モ急シク之トアルモノニ候所
ニハ寄り可申候ヘトモ先此考アルベク

候但シ人居近キカ大ナル嶋畑ハ中ニモ
見分次第大形ハ可為下畑
一 南ニ森ヲ請候カ又ハ屋敷廻リニテモ竹
木茂リ日蔭ニ候所ハ田畑トモニ耕作出
来兼ルモノ候間綴ヒ上田畑ノ並ニ候ト
モ見合中ニモ下ニモ打ツモノナリ
一 新田場之レアリテ田中ニ百姓屋敷ヲ構
居申者ハ廻リニ竹木ヲ植屋敷構ニモ仕
モノニ候間見計少モ緩緩カニ打ツモノ

ナリ屋敷檢地詰候ハハ以来百姓有付兼
ルモノナリ
一檢地打初テヨリ其日打候ヲハ帳ニ付綴
ト夜更候トモ野帳ニテ其夜、内ニ步掛
上中下、拾々田畑ノ然寄段高ヲ見埒ヲ
明ケ可然候一日油断致候ハハ上中下ノ
頭付ノ心覺モ忘レ其上毎日々々ノ帳ト
モ重引候ハハ二三日モ四五日モ其村ニ
逗留不致候ハハ勘定清帳出来サルモノ

ニ候間左様ニ候時ハ其村ノ百姓繩打衆
永々ノ逗留迷惑致スモノニ候昨日打候
ヲ今日清帳出来シ其清帳ニテ讀合拾々
入念野帳ト相遠ナキトキ上中下ノ位ヲ
ハ不付候テ村中百姓呼寄ヤ其清帳ヲ百
姓ニ渡シ奉行ヲ付讀合為致步遠間遠所
付ノ遠之レアルヤト相尋若シ相遠所モ
候ハ、詮議ヲ遂ケ直シ可申候自然徒ナ
ル百姓遠目之レナキヲ相遠之レアリト

申出候ハ、前廣急度申断若シ遠々無之
候ハ、曲事ニ可申付旨申渡其上改メ遠
目候ハ、直スモノナリ清帳百姓不見ヤ
テ帳仕立帳奉行ノ方へ遣シ其村ヲ立候
跡ニテ遠候ニハ百姓迷惑仕繩打衆奉行
へ渡シ高帳極リ候ハ、百姓モ永代迷惑
仕繩打衆モ不詮議成重テ改繩入候ハ、
大切ノ儀ニ候間前廣右ノ考へ然ルハキ
事

〇ニカ

右ノ條々檢地ノ内晝夜心ニ掛ケ方事無油
断慎ニ肝要也

兼應三年午七月

右ハ曾根覺并御勘定頭相勤候時分檢地
被仰付御代官へ被相渡候也

覺

一檢地ハ百姓進退極所ニ候間別テ入念其
村ノ田畑上中下有所野山林池川堤才繪
圖為致取之其上ニ委細見分大概不極強

弱無之様ニ可致檢地事

附檢地極候田畑ハ印ヲ立置示紛様ニ

可致事

一 間竿ノ儀雖為六尺二間竿一間ニ一分ッ

ヲ加来リ候條長一丈二尺二分竿ヲ以テ

檢地可仕候勿論一段可為三百坪事

附百姓居屋敷圍之藪四壁ハ可除之但

藪ニ大藪大林ニ仕立候分ハ檢地ノ内ハ

可入之若ニ存寄ノ儀有之ハ覺書記可

得下知事

一 田畑位付ノ儀上中下ト大方三段ニ有之

候此度吟味ノ上地面帳所ニテハ上々ト

一段立ノ上ニ一ツ高ニ相極急シク有之

所ニテハ下々ト一段立ノ下々一ツモ二

ツモ見計次第位ヲ下々極上々上中下下

々ト五段ニ相定メ可然候屋敷ハ古来モ

上畑並ニ候間此度ハ上々定メ候テモ可

然ヤニ候ハトモ上ノ位ニ可相極候申不

及候ハトモ其村ニ上々下々無之所ハ有
来通りニテ可差置候但ニ位付ノ儀ハ其
所ノ百姓堅ク誓詞申付可致位付檢地仕
候者ノ見分ト引合詮議ノ上可相極事
一畑方檢地ノ儀漆素楮茶蘭ナ有之所ノ分
檢地除ノ別年貢申付可然候但古来ヨリ
称重テ年貢出候所ハ其通ニテ差置ヘキ
事

一 寺社領入組ノ村出高ノ儀御蔵入ト寺社

領ト多少有之候トモ有来通りニテ差置
事

一 永荒場并川穴々山崩ナ有之者其場所見
分ノ上委細吟味ヲ遂テ可立所ハ早々田
畑ニナル候様可仕事

一 檢地ノ儀三十年以前ヨリ除キ来リ候所
ハ綴ハ證文無之候トモ可除之檢地帳ノ
奥外書ニ可仕三十年以前ノ除地ハ致檢
地高ニ結可申候但ニ所ニヨリ品ニヨル

ハニ委細書付記可被得下知事

一百姓林、儀少分、所ハ其通りニ候大分
ノ所ハ輕年貢可申付事

一田畑ノ内ニ有之大石大木其外作毛仕付
難成所、分ハ能ク々々吟味ノ上其分檢

地可除之

一池沼、分ハ一兩年ニモ新葺ニ成候所ハ
百姓相對、上致檢地高ニ入可申候五七
年中ニモ新葺ニ成候所致檢地帳奥外

書ニ可記置事

所田畑ノ道付替ト百姓願申所ハ見分
ノ上吟味有之テ障リ無之所ハ百姓願
ノ通りニモ仕替可申事

一檢地役人正路ニ可致、旨堅ク誓詞可仕
事

所致案内ニ名主年寄百姓地面引落間
シク候并ニ檢地ノ者召仕オマテ非儀
有之候ハ、早速可訴之旨誓詞前書ニ

可書載事

一 田畑石盛位付ノ儀隣郷ノ盛相考甲乙無
 之様尤モ山方野方ノ村ハ格別ニ候間可
 有心得儀ニ候尤モ用水急水ノ掛引旱損
 藪林ノ日蔭日向ボマテ相考位付ベシ并
 二 田畑所付明細ニ書付重テ地詰ノ節相
 透無之様水帳ニ可記之然リト雖尺地面
 ノ善惡不限或ハ田方畑方ノ多少或ハ農
 業ノ外餘計有之ニ付相考石盛可相極ハ

事

一 御料并ニ私領寺社領入組ノ所ハ双方百
 姓立會檢地可仕私領方ハモ此旨申聞家
 來可罷出ト申候ハ、為立會檢地尤モニ
 候相断候上ハ立會ノ者於無之ハ不可及
 其儀事
 一 先高ノ内ニテモ隣郷村入組境目不正所
 有之ハ双方ノ村詮議ノ上申分無之旨手
 形取之極ハシ若シ不落著ノ所ハ檢地仕

廻リ候以後伊勢日向守前田安藝守方へ
双方名主百姓召連及裁許落著ノ上水帳
可相極事
附村境ノ檢地打詰候ハ村境分木可立
置事
一新規ノ肩書ニ古檢可記之事
一引方ノ儀起迄新田新畑改出穿ノ内書ニ
可記之事
一御朱印地ノ外寺社領又ハ跡々ヨリ除キ

来候場所ノ儀慥ナル証文於有之ハ水帳
ノ末外書載其外除地分同前帳面可記之
然リト雖モ古水帳ノ外書ニモ不相見御
代官給人証文モ無之除キ来候由申場所
モ檢地致シ置キ由緒覺書ニ記御勘定所
可得下知事
一御年貢米詰置候藏屋敷ノ儀ハ跡々ヨリ
高ニ詰候所ハ不及申綴高ノ外タリトモ
致檢地帳面ノ内ハ可書載然リ雖モ御藏

有之内ハ御年貢可除之
 一野手山手ノ場并山林有之所ハ致檢地委
 一細可除之然リト雖凡或ハ高山或ハ嶮阻
 又ハ場廣山ニテ境目不分明ノ所ハ不可
 檢地事
 一御料小物成ノ所檢地仕可然所私領寺社
 領ニ入組候場所タリト雖トモ檢地可仕
 事
 一百姓居屋敷并ニ立山竹木藪跡ニテ除キ

来候分ハ別ニ檢地仕除之子細書付可取
 之事
 一見取場ノ儀高ニ結可然所ハ檢地可仕事
 一小作百姓水帳ニ名付候儀ハ地主註識ヲ
 遂テ証文ヲ取リ肩書ニ可致分附事
 一家抱地水帳ニ付候儀地主註識ヲ遂テ誰
 一家抱ト肩書ニ可記事
 一檢地村移ノ儀檢地總奉行ノ者可任差圖
 事

所勘定仕候後ハ役人、外其所ハ出入
一切停止之
一檢地致帳毎日百姓トテ貸渡相違有之ハ
可致吟味事
一檢地仕廻リ候以後檢地ノ者并ニ召仕下
々才マテ百姓ニ對ニ非儀有之ヤ檢地總
奉行ノ者村々然百姓ニ吟味ヲ遂クハキ
事

一相極候水帳檢地奉行竿取業内ノ者奥書

判形仕置御代官ハ相違村々名主方ハ渡
置其後御勘定ハ可納置事

右ノ條々得其意檢地以前於京都能勢日向
守前田安藝守ハ相違可仕差圖此外ニモ存
寄、儀有之候ハ、是又右兩人ハ可相伺候
以上

延寶五年己三月

右ハ五畿内檢地仕様、御書出也

檢地仕様、覺書

一手代竿取并ニ百姓誓詞ノ趣銘々案文ノ
通其村ノ於鎮守神前熊野牛王相認可申
事

一檢地初無之以前総手代竿取一所ニ寄合
候節何モ竿試ニ不同有之竿取ハ打覚候
マテ幾度モ試ニ可申候檢地中モ毎日朝
夕兩度モ手代竿取共ニ竿取可申候万事
ノ詮議ナ諸手一同ニ可申合候不同有之
候ハハ檢地無之村々ニテモ善惡批判有

之モノニハ譽モソシリモ請不申候様可
入念事

一間竿ハ一間六尺一分相定候煤竹ヲ能ク
夕々用之間繩ハ延縮無之様相改豎横寸
尺打立寸ヲ捨尺マテ可有勘定毎日五度
モ三度モ竿打候間數相改勿論相遠有之
ハ細々繩ニテ可致相遠無之候トモ不可
有油断事

一村移仕其村ノ境目マテ不殘致見分古來

上中、地坪相改令程上下位、入替候所
明細致穿鑿古水帳、田畑屋敷古町步上
中下、テ今度見分、田畑屋敷總町步上
中下、引合能ク々々考之其上檢地、取
付可申候右村中見分、節新道新溝并、
廣ク候所願候ヤ前廣相尋能ク々々見分
ヲ遂ケ可然儀候ハ、新引方、段步大様
書付可下知候小檢見ハ一年切、候大切
成儀、候道代溝代ハ重テ檢地、時分、

テ引候事、候間能ク々々可入念候付新
道引候ハ、長何十間横何尺ハ道代、ト外
書、記廣ク候所ハ古道、ト外書、相立長何
間横何尺古道、ト外書可記事
一、毎日卯刻半時、罷出申上刻、仕廻可申
候勘定其日限仕所步、然寄步掛才無相
違様、可入念事
一、豎横打立不申以前其坪、段步致見分新
檢過不足有之様及見候ハ、改直可申候

自然間敷詰り候ト百姓申出候ハ、是又
改直可申候其節ハ必ス吟味強可成候間
然様一同ノ心持尤ニ候

一朝ト晚ト風雨、日ト穂、上ト土田ト上
リニ打候ト深田浅田畔、上其外種々心
ヲ付檢地可仕候穂、上ハ地面廣ク相見
候然テ横繩ノ入所可入念事

一形ノ惡シキ田方小カフノ檢地ハ仕能候
百姓モ望ミ申モ、ニ候大株ハ打惡シク

一候ハトモ以來ヲ考ヘ候ハ、小カフ不可
然候間立廻リ、遠見分可相成所ハ大株
ニ打チ可申候附毎日打仕廻候境目能々
入念落地無之様ニ尤ニ候事

一境ノ畔除之田中、疇ハ打入可申候畑境
ハ畔構ノ所マテ檢地可仕事

一棚田ハ然畔代可除之山、尾ニ有之片下
リノ畑ハ勾配考之繩入可申候

一本蔭藪蔭ハ可用捨森、松蔭ハ田畑ノ北

一 有之トモ作毛ニ障リ申候事

一 屋敷ハク不垣除之庭ノ分ハ打可申候自

一 然田ノ内畑大分有之ハ其百姓ノ居体ニ

隨ヒ野畑ニモ打可申事

一 百姓屋敷續候竹木ノ林大分有之ハ屋敷

歩外ニ打立別帳ニ可記事是又品ニヨル

ハキ事

一 堂屋敷地ニ致檢地可得下知事

一 田畑上中下ノ儀大株ハ四方トモ致見分

可相定右ノ善惡屋敷且井溝近所日當日

蔭野外ノ流ノ末片下リ北向湿氣冷場水

損場旱損場色々一度差別ヲナカテ不可

依當作落着難哉所ハ隣郷ノ檢地奉行ト

可事遂相談可相定其上ニテモ滞儀有之

ハ何ニ不寄可請差圖事

一 下田ノ場ノ中ニ中田一株有之ハ其百姓

以勢力地庭ノ右ヲ拔候カ疇ヲ直ニ外ノ

土ヲ入候カ何卒款可有之候間致吟味田

並々ノ位付尤ニ候勿論中田ノ中ニ有之
下田ヘカフモ田ナラビニ同前タルヘキ
事

一山カセキ浦カセキノ時ハ農業疎畧ニ候
然テ作毛怠シク候地面隨上中下ノ位可
相定事

一 下々田下々畑ノ場所上中下ノ場所トハ
可有心持然リト虽凡怠地ニテハ竿取ノ
者所存ニ百姓迷惑不仕様ニ打申候ニハ

誓詞ノ罪有間敷候少シナリトモ強打候
テハ神罪當リ可申ト心得候事モ可有之
候間寛カ過不申様ニ可有吟味候附見取
ニ打申ヘキ所ハ可有注進候并ニ永不足
田畑一同ニ相改帳ニ可載事

一 嶋畑ハ大形一位可引下但以來田ニ可罷
成所カ又ハ大カフノ嶋畑ハ可依地面田
續ノ畑畔ヲ掘上ケ五步七步田ニ仕候分
ハ畑ノ内ハ打込掘田トモニ可記事附入

歩ハ段歩ノ内ニテ間敷ノ外ニ候上ハ何
歩計可記事
一 郷藏屋敷ニ致檢地帳ニ載可申事
一 寺社方除地ノ儀前廣ニ穿鑿ノ上繪圖請
取兩人ヨリ相渡候外ハ野帳断書不及候
且那ト寺方ト申合御藏入ノ田地掠取候
ヲ不吟味ニテ寺社領ニ仕候儀無勿体事
ニ候間場所能々見分ノ上繪圖相遠無之
ヤ除地ニ可罷成所候ヤ委細可及注進事

一 名請異論有之ハ其子細兼届其村々手代
ハ令相談其上ニテ不相濟儀ハ可有注
進候附分附ノ儀古水帳ノ通地親書付小
作ノ名ハ引下書付可申事
一 古水帳ノ番付ノ案内帳ノ順々ヲ毎夜談
合地所能々可有吟味兩日ニハ猶以右ノ
穿鑿不可有油断候左ノ候テハ古檢地
ノ儀不可分明事
一 只令マテ有來候道溝畔疇亦新規ニ廣候

儀有之ハ田畑、内ハ打入早々可有注進
候急度曲事可申付候間見ノ力ニ中間敷
事

一於檢地場百姓綴へ不謂訴訟達ニ申候ト
モ腹立申間敷候若シ少成トモ腹立候心
ニテ檢地仕候ハ、可有不同事

一檢地仕廻候以後上中下、位新檢古檢引
合考之尤候勿論位上リ草取、出目大分
有之村モ又ハ引込候村モ可有之候上過

候村上カ中カト存候田畑ハ中ニ直候心
持專一ニ候然ラハ上カ中カ下カト存候
分ハ野帳ニ心覺ヲ致尤ニ候此、如ク考
無之候チ一郷位マケト申候百姓一人毎
ニモ位マケ可有之事

一村中総町步上中、位付然百姓呼寄野帳
為取扱見間敷上下、位付有之ト申出候
段於分明ハ直ニ帳奉行、方へ早々可相
渡上下、位多少ハ可任了簡事

一 右盛、儀古水帳、通可相守雖然段別取
 二 天右高取、テ天年貢諸役無高下勤
 候様尤ニ候上々田ヲ天打立勿論右盛不
 相應、所ハ得下知可相定候事
 一 酒一切飲申間敷候朝夕トテ手代ハ一汁
 二 菜下々ハ一汁一菜用可申候事
 一 同役、内中能可仕候不和ニ候ハハ万事
 二 付テ惡シキ儀候間可慎事
 一 其村立退候節手代筆取小者ボマテ不作

法無之旨手形取可申事
 右、條々昼夜心ニ掛能々可相守筆取、者
 二ハ起証文前書毎朝為讀聞手代可忘之者
 也

延寶六戊年三月

一 寺社除地証諸吟味、次第寛永七末年々
 テチ古跡翌申年ヨリ新地ニ定年敷、吟
 味左ノ如シ
 棟札 鐘銘 鐔口 石塔 手水鉢 過

去帳 本尊過去帳 血脉 印狀 什物
ノ裏書 聖銘 鉸鐘銘 石燈籠 縁起
古水帳 位牌ノ書付 開山 中興開山
本尊後佛像中 前々檢地ノ節古跡寺社
境内除來候分ハ領主証文有之ヲ無之ヲ
除地ニ定メ境外ノ免田畑ナハ御朱印無
之古水帳ノ末外書ニテ不記置見檢地ノ
類古來ノ除地ナハ村高ニ入年貢地ニ定
ル但慥ナル証文有之候ハ詮儀ノ上除

地ニ成候ニ有之境内山林藪ナハ不
寺付ノ境外山林藪ナ除地ニ定ル新地ノ
寺境内境外前々ヨリ除來候トモ年貢地
ニ定メ古跡ニ相見候トモ開基年号不相
知其外旧記ナハ不分明ノ分ハ新地ニ准
ルナリ
一 武蔵國檢地ノ節古跡新地寺社境内并ニ
境外又ハ堂社除免田畑或ハ廢地坊跡寺
社付ノ山林藪野古塚沼池ナニ至ルマテ

除地又ハ無年貢ノ証文有之モ無之モ只
令マテ無年貢ノ分ハ前々ノ如ク無年貢
地相極跡々ヨリ年貢納メ來候分ハ先規
ノ如ク村高ニ結ヒ年貢地ニ相極候但シ
古來無年貢地ノ境内并ニ境外免田畑亦
延寶五巳年以來年貢地ニ成候分ハ往古
ノ通高内トモニ無年貢地ニ被仰付候依
之所々御代官ハモ相觸レ右ノ通巳年以
來年貢地ニ成候分往古ノ如ク無年貢地

ニ定タル由見タリ

居檢地

居檢地トハ私領杯年久シク前ノ檢地ニ
テ右盛地面トモニ不陸ノ村方ニテ地頭
ヨリ役人ヲ出シ檢地致候テモ正路明細
ニ無之百姓ノ心ニ應レ候様ニモ難成時
ハ居檢地ヲ用ヤ勿論不及得旨上裁正路
順道ニ廿八致ヤハ百姓ニ打任セ置地頭
役人ハ不立會百姓寄合田畑上中下ノ位

付石盛ボ少モ無相遠様ニ仲間吟味ニテ
欲心ヲ止正路ヲ根元ニテ帳面仕立ルナ
リ田畑ハ竿繩ヲ新規ニ不入古水帳ボニ
テ可濟不ハ用之實ニ竿不入テ不叶所ハ
ハ可入組名主平百姓ノ内ニテモ石高モ
持正路成者ヲ撰村高ニ寄五人十人其餘
モ立會ヲ致相談石盛ノ附様正路ニテ地
頭ノ為ニモ能ク百姓ノ迷惑ニモ不成様
ニ可仕旨申付乍然位付百姓仲間ニテハ

持明兼ル故ニ田畑ノ位一二附ヲ百姓ヨ
リ為書出一二三ハ上四五六ハ中七八九
ハ下十十一十二ハ下々ト極ル事ナリ先
ハ大法ナリ是又百姓ニ得ト熟談ノ上極
ルナリ本田畑ノ内切添ノ分ハ尤本田ノ
内ハ入ル新田畑ハ明細改之別紙ニ帳面
ニ仕立サセ是又土地ニ應シ一二附サセ
ルナリ地頭ノ心入サセ順路正直成ハ木
石ニアラサル故百姓ハモ感通スルナリ

一 御知行村々へ檢地候筈ニ候へトモ百姓
物入モ有之儀故御用捨ヲ以テ百姓吟味
ノ上居檢地ニ仕候様被仰付候居檢地
ノ仕方ハ村々百姓誓詞仕候上田土地隨
不心ノ又候程吟味仕候テ田畑ノ位附ヲ
以一二附ニ仕一ヨリ十二ヲテ段々ニ一
筆切ニ字名附出シ地所相應一二附少モ
相遠無之様ニ帳面ニ仕立差上可申事
一村中総百姓立會候テ相談詰兼可申候庄

屋組頭ノ外高持百姓ノ正路成者ヲ撰出
シ村高ニヨリ六七人十人程立會一二附
ニ相遠無之様隨分入念慥ニ遂吟味帳面
仕立可申事
一本田附ノ切添新開ハ本田畑ノ内ハ附候
テ一二附可仕候事
一 一場立候新田畑者別帳ニ仕立土地相應
ノ一二附心ノ及程遂吟味ヲ候テ地所相
改段步竿繩ヲ入候テ段步無相遠様ニ相

改可申候竿取仕候者ニハ別紙ニ為致誓
詞少シク依怙最負無之様ニ能ク入念入
竿入可申候事
一新規ニ井筋ヲ立又ハ作場道ナリ附候様
成地所ハ村中相談ヲ以テ繪圖書付ニ仕
願ヲ相立候テ願ノ通被 仰付候ハ一延
々不仕早速普請取懸リ埒明候様可仕候
事

右居檢地ノ儀百姓仕立候帳面正路ニテ致

方能候ハ、帳面ノ通被 仰付候間隨分
心ノ及候程入念候テ帳面仕立可申候若
シ不相應ノ一二附又ハ新田改様正敷無
之様ニ相見候ハ、從御地頭役人御指圖
被成候テ檢地可被 仰付候間能ク遂吟
味候テ此度ノ儀百姓仕立不埒ノ事被成
サル様下可仕候帳面ノ仕方サハ正シク
能候ハ、百姓ノ願ノ通可被 仰付候間
能ク相談仕候テ相遠成儀無之様ニ可仕

候百姓誓詞ニ被仰付候間此度堅ク相
守候テ正路第一ニ可仕者也

何村居檢地田畑位一二所

書上帳

一字何 一田何反歩 誰 一字何 一畑何反歩

一字何 二田何反歩 誰 一字何 二畑何反歩

一田合何程 一畑合何程

二田合何程 二畑合何程 幾ツテモ右
三推ニ認ルナリ

又此書面ノ如ク不致テ田畑ノ位上ヲ上々

中ヲ上下ヲ中下々々下ト如此位計ヲ上高
ヲ多スルヲ天居檢地下云々ナリ不得上
裁テハ不成事ナリ

地押

地押トハ田畑上中下ノ位右盛ボヲ不改

水帳引合田畑山林ニテ天竿ヲ入段別改

ナリ尤不及得上許論所又ハ水帳不

之村方ニテ免状割附ノ段歩計ヲ用來百

姓前平直ニ無之或ハ古檢ノ竿延縮切添

ボニテ歩廣成所或ハ見取場杯ニテ用フ
ル丁ナリ野原附ノ場ハ切添総地ノ所ハ
竿エル打歩廣ニ有之モノナリ地押ト
モ地改トモ云地押ニテ高及別一二双倍
候今ハ村高免状ボニ外書ニ何程ハ何年
地押改出トカ又見取場何ノ年ヨリ高ニ
入ト記置若四双倍モ増候所ハ地押ニテ
ハ難濟檢地ニ改ムルナリ何テ地押ハ其
心得ニテ野帳ノ付様入余リ候様ニ示合

地押ニ取掛ナリ然テ急ニ取箇ヲ可増ト
テ地押致候ハハ百姓ノ心入背年貢ボ滞
ルモノナリ川欠山崩ボノ氣遣モナキ慥
ナル新開切添ボノ改出ハ地續並ノ石盛
ヲ用村高ニ結入村高内書ニ見取場何ノ
年ヨリ高入ト記其年ヨリ三年ノ間ハ見
取別免ニ致本取ヨリハ四五分モ下免ニ
取四五年目ヨリ本高免ノ並ニ取箇付又
未々相續致間敷場所當分ノ時宜ニ任セ

改新田杯上高ヲ免状ニ載レハ其場所潰
 レテモ其高永々免状ニ載高掛リ亦有之
 村ノ難儀成ナリ又古田畑地押ノ上出歩
 有之テモ三年ノ内ハ取箇豊凶ニ依テ少
 ヲ心持ヲ致置三年過テ其増分連々取上
 候勘辨肝要ナリ又地廣成所ハ竿ヲ不入
 トモ取箇ノ見込ニテ所務不拔手段何分
 ニモ成易キ事ナリ又水帳名寄帳亦不埒
 ニテ百姓持高年久シク入狂有之百姓由

二 依テ地押ノ上新名寄帳仕立渡村認方
 大概左ノ通

水帳誰名請

一 字 上田何反何畝步 何右雨 一字 中畑何反步 何兵衛

外何反步 何年地押出歩

外何畝步 何年地押出歩

但此外中下田畑共ニ右ニ准ス

此畝何反何畝步 何助

外何十步出歩

何畝步 何左雨

外何畝步出歩

水帳誰名請

一字 上田何文何畝步 何兵衛

内何文步 何年地押不足

此不足ノ分高内永引致年貢差免候ハ

ハ追テ外出歩ノ見込ヲ以テ増候時滞

有間敷也高役ハ大体ノ減歩ニテハ不

免之

地無高ハ高役年貢共ニ高ノ内引ニ致候

川欠山崩、地面銘々持主知候ハハ持主

ヨリ高役年貢共ニ辨納ノ筈ナリ併ニ畢

竟百姓難儀ノ事故高役年貢共ニ内引ニ

致候大格ナリ

年之シク私領杯田畑位付不知百姓持及

別カ持高割ニテ年貢納来何レノ田畑上

共中共不知所有多ハ及別割杯ニ仕来位

付不知ナリ

カフリ高又ハ無地高トテ村高計前々ヨ

リ有之過半地面無之村何方ニモ有之事

ナリ勿論當分儀ニ出来候モノニ無之跡

クヨリ其村ノ持病ニ成来事ニテ平箇ノ
障ニハ不成事ナリ
一 隱田トハ檢地ノ時押隱候ヲ隱田ト云重
キ科ナリ年久キ以前ヨリ新開又ハ荒地
立歸リナ有之處百姓不申出檢見郷村廻
リノ節天役人不改出見落ノ筋ニテ改出候
ハハ見取立返リボ申付事数多有之咎ニ
ハ不及例ナリ檢地ノ節案内仕落シ候場
有之秋ノ一所發前ニ申出レハ落地ト申

檢地帳其字切ノ脇ニ落地ト記畝地
其ニ書記ス一所務致テ外ヨリ訴人出ハ
隱田ノ科ニ申付事ナリ

農業 苗代

田ヲ牛馬ニテ糞水ヲ掛冷シ其後鋤ニテ
平均干鰯酒ノ糟ボヲ灰ニ交肥ニスル所
多シ扱種ヲ下シ春ノ土用五日程以前十
日程水ニヒタシ置揚ル又揚テ置事五日
程此時ニ至テ芽萌即蒔凡日数十五日程

掛ル蒔旬格別早場所海辺杯ハ大概土用
、内ニ當ル早稻ハ彼岸ニ入種ヲ下ス中
稻晚稻ハ少間有ル所ニヨリ早稻中稻一
同ニ種ヲ卸ス右苗蒔付テ四十日過四十
日目ヨリ植ル所有リ又半夏ヨリ五三日
以後植ル所有國所ニヨリテガク宛遅速
有植日数大概十日程掛ル細ニ植ル場所
二十日程日数四十日ヨリ早ク植レハ虫
付又遅植レハフシ立テ取實少シ地廻リ

辺ハ一坪大概九ニ口植ル総辺ハ十ニ程
十三四程ニ植ル沼田ハ八ニ位種叔里方
ハ一段ニ六升程野土砂地ハ一斗程ナリ
種叔ニ由ルトイヘトモ一升浸ハ一升二
合程ニ成ル苗代田ヲ取事種一斗ヲ二十
五坪位ニ取中分ナリ又二十坪位又二十
七八三十坪位ニ取所モアリ
一田ノ艸桂ノ夏ノ土用ニ入四五日マテハ
内ニ三度取吉トス然レ氏麦刈オニテ障

ナキ故植付十日程過一番ヲ取又十日程
過二番草ヲ取夏土用ニ入四五日マテニ
取仕廻ナリ田水ヲ干事夏ノ土用明段々
ニ干スナリ稻刈早稲ハ秋彼岸前ニ刈取
五日程ニ刈仕廻中稲彼岸明ヨリ刈初十
日程掛ル晚稲彼岸明十二三日程過刈初
日数廿日程ニテ刈仕廻尤日和意ケレハ
日数ル檢見旬秋彼岸ニ入十二三日目ヨ
リ三十日程ヲ限ルベキカ山方ハ少シ早

キ事有水所ハ遅キ所有

一田方仕付様國所ニヨリ色々有地高成所
ハ植ル時馬屋コヘ一反於駄程踏込又植
仕廻田ノ畔一畝取弥コホレハ大概如此
チコハ肥少シ少シ尤ソブ付ケハ灰ヲ打
入手間一反ニ九人程掛ル肥干鱈一反ニ
一俵程上出来粒三石餘ナリ肥ハ下肥刈
裏馬屋肥ブドウ酒油粕海草其外品有ル
ベシ

采撈

男三人女三人程合六人内三人ハ白ニカ
ハル一人ハトウミニ掛ル一人ハ板フル
ヒニ掛ル年貢米ハ一日ニ夜ニ入ルマテ
掛リテ叔四石程小作米五六石程ド出来
ル

大麦小麦

大麦ハ真土野土砂地トモニ上中下一同
ニ作ル真土ハ種麥一反ニ四五升或ハ八

九升ヨリ一斗マテ野土ハ一斗ヨリ一斗
四五升マテ但小麦ハ下畑下々畑ニ作ル
肥干鰯蒞ノ糞一反ニ金一分分程馬屋肥
ハ二十駄程下肥ハ四五十荷又アヘヲ三
四扁シ打テヨリ取實一反ニ六七斗ヨリ
一石二三斗上地ニテハ二三石取真土ハ
男女五六人ニテウナイ蒔付共仕廻野土
ハ四人程小麦ハ土地ノ善惡ニテ取實多
少有又肥シ過テハ小出来ナリ蒔時ノ旬

野土ハ秋土用以前ヨリ真土ハ土用明日
リ寒國程蒔付向早シ畝入年内ニ二度片
切致ヲ上トス春ニ至テ二度ナリ肥入蒔
付ノ時一度二葉作りテハ肥一度正月二
月ニテニ一度以上三度ナリ刈向早夏四
月中ノ節ヨリ刈初ル中夏四月下旬晚麦
五月上旬小麦同上旬過收納ハ田方植付
仕廻取掛

粟薺

中畑以下麥ノ跡ニ作ル野方山寄野土、
所第一ニ蒔工地作ハ稀ナリ春、土用明
十日程過蒔種粟ハ一反ニ三合程薺ハ一
反ニ八合程右二品刈向秋、彼岸ヨリ十
日程以前ニ刈粟薺ノ肥ハ麥ニ同シ下肥
ニテ作ル手間ハ麥ヨリ不入粟上出来一
石程稈ハ四五石程力但大豆小豆木綿菜
大根才秋作ト云

大根

上畑ニ作ル麥ノ跡ニ不植地ヲ休メ置作
ル土ヲ深クウナヒ上テ蒔ハイ揃成長ニ
隨テチ口拔肥ハ下肥六十荷程入手間麥
ニ同ニ夏土用明蒔秋土用過ニ取夏大根
ハ春ノ土用ニ蒔一反ニ大方四十本程取
辛味大根ハ赤土下畑ニ相應ナリ真土ノ
所ハ辛味ナシ

菜

上中下畑日蔭山畑赤土畑ニモ多作ル春

ハ荒シ置冬菜秋菜ハ二百十日ノ節ニ蒔
水菜ハ秋ノ土用ニ蒔麥荏ノ跡ハモ作ル
肥ハ大根ト同シ人手間麥ニ同シ
牛房
上中畑ニ作ル真土ニハ不出来ナリ麻ノ中
ニ作ル所モ有四季共ニ土用ニ蒔菜大根
ノ手間ト同シ深クウナフ程吉牛房大根
共ニ實能入ル時葉ヲモキ生テ置クナリ

夕バコ

上中畑ニ作ル角ノ有黒キ石ノ交リタル
山附ノ真土上夕バコ相應ナリ野土下夕
ハコナリ灰肥ヲ以テ正月下旬ニ種ヲ下
ス生出一寸計ニ成時取テ植ルカヨシ朝
昼晚三度虫ヲ取葉ノ上下又ハ眞葉ニ成
程少キ虫有能ク取ヒ夕モノ目ヲカクシ
ニ葉ニ少モ虫喰ノ疵有ハ成長ニ隨虫喰
多クナル故念ヲ入虫ヲ取又少キ内ハ切
ウチト云虫根ヲ伐ル故此虫ヲ取事肝要

ナリ叔能實入葉強バリ候程ニ成時下葉
ヨリ上葉マテ連々ニ欠キ採大方六月中
旬欠キ初ル夫ヨリ三日程モ葉ヲ壁ニ立
カケ重ネ上ニ菰ヲ掛ケ能ネセテ少シ黄
ミタル時取出シテ糞ニ狭ニ毎日干ス
七ッ過ニ取込雨露ノ不掛様ニ致大方七
月下旬マテニ干上仕廻ナリ一番葉欠キ
取終テ真木ヲ根ヨリ切伐口ハ土ヲ掛ケ
置キ二番葉成長ヲ待尤二番三番共ニ前

ニ同シ干加減ハ上ノ葉赤ク成テモ伸候
ハハ中ハ青葉ニテ色惡シキモノ故日數
ヲ經マテ干スナリ雨降シメリ日ニノス
バシ板ノシ重ネ上ニ蘆ヲ重ネ居敷ハシ
ハ能延見事成ナリ一又ニテ上々ノ出来
金四五兩或ハ二三兩程ニナルヘシ尤モ
根ヲムグロノ不通様ニ畑ノ廻リニ竹ヲ
差込ベシ

芥子カラシ

中畑以上ニ作ル八月十五日ノ節ニ蔴翌
年ノ夏取川表惡地ノ畑ニ作ル事多シ水
ニ強キ物故ナリ肥下肥三荷程人手間麥
ニ同シホミ土ニハ肥イラマナリ
中畑以上ニ作ルカラシト同シ水付惡シ
折々アヘヲ打州ヲ取テヨシ
上畑真土砂土ニモ作ル肥蔴入マテ五十

荷程但下肥ヲハ生出テスヘシ馬屋肥ハ
一扁人手間麥ニ同シ二度程草ヲ取テヨ
青地又ハ麥ノ間ニモ蔣ナリ肥ハ兩度入
ル一又ニ干鰯ニ朱程又下肥酒油糟ヲモ
入ル草ヲ三度程取土用中ニリシヲ付テ
土用過テ先ヲ留ル上出来綿三十貫日程
兩年旱年ハ不出来ナリ

木綿

藍

中畑以上ニ作ル肥二三度アヘヲ二度打
艸ヲ取程吉シ肥木綿ニ同シ

茄子

上畑ニ作ル灰肥ニテ苗間ヲ仕立正月下
旬伏セ田植ル時分生出ル丈ケ二三寸ニ
成時土共ニ取テ植ル長七八寸ニ成ルマ
テニキリウジ虫ヒタト根ヲ伐ル朝々土
ヲカキ除虫ヲ取捨地ヲ能クウナヒ三尺

ニ代ヲ調下肥干付テ土ヲカケ置植ルナ
リ二十日餘リ過根付テ下肥カ鱈肥ヲ廻
リニシテ土ヲ寄ル又根付天氣能日ニ新
葉ノ上ヨリ小便ヲ大柄杓ニテ一ツ程宛
掛ル花ノ時分ヨリ油虫花ノシシヲ吸度
々此虫ヲ取ルナリ又根ノアタリヲムク
口不通様ニ竹ヲ差込ヘシ

六角豆

中畑以下ニ作ル春土用明十七八日過植

ル但宛ヲ突明二粒ツ、植ル十六サハケ
ハ一尺程生出ル時長キ竹ヲ指テカラマ
ス地サハケハ四ツ目結ヲテカラマヌ又
植ナクテモ能肥ハ下肥一返草ヲ取テ吉
切ウヂ虫油虫或ハ蟻子付テカシケ用ニ
不立度々虫ヲ取尤ツル先ヲ留ル大方ニ
交ニ四升程ナリ又根ヲムク口ノ不通様
ニ畑ノ廻リニ竹ヲ差込カ吉

芋

上畑ニ作ル種ヲ春ノ彼岸ニ植ル一反ニ
一斗ニ升程但ザルニ六サレ程カ小麦ヲ
作ル地肥小麦ノ中ニ植ル所存植ル時穴
ヲ突明植テ灰ヲ掛ル生出テ下肥十四五
荷膏テ廐肥二十荷程又下肥十四五荷
掛ルサシツケ地吉土深キ程吉地浅日損
所採ハ惣シ大方六七石或ハ十四五石程
モ取葉ハ秋切干ニテ夫食ニ吉シ
又山ノ芋ヲ作ルニハムゲ口モ千採虫食

種ヲ絶事多シ割竹ヲヒタト畑ノ廻リ差
込ムク口モ千ノ不通様ニ竹長一尺程ニ
切六寸程土ノ中へ打込三四寸上へ出シ
置クヘシ

蕎麥

下畑山畑ニ作ル先ハ蕎麥畑ニハ豆ハ不
作籾ヲ作其跡ニ蒔下肥三返程掛ル一返
ニ十四五荷程一石二三斗或ハ一石ホド
ナリ

大豆

中畑以上或ハ田ノ畦ニモ作ル春土用明
十七八日過蒔付ル一畝ニ種四升程蒔ノ
間ニ植ル肥ハ蒔ノ肥ニテ吉畦大豆ハ杭
ニテ畦ヲ突植上ニ灰ヲ掛ル益過秋ノ土
用十四五日過收納中下一石或ハ七八斗
取ナリ
小豆
中畑以下ニ作ル春土用明十七八日過蒔

一畝ニ種一斗程蒔ノ間麥ノ跡ニモ蒔諸
事大豆ト同蒔中分一畝ニ六七斗取又高
麗小豆ハ山畑ニ蒔是ハ手入ナシ肥一二
返

黒大豆

中畑以下ニ作ル大豆ト同シ肥多ケレハ
取實少シ
凡白凡真凡西凡
下畑ニ作ル春ノ土用前ニ蒔一畝ニ干鰯

一分ト程植ル時茄子ノ如ク代ヲ調植油
虫ヲ取ツル先ヲ止ル程ヨシ上出来代金
ニテ大概一兩二三分人手間大分掛白化
真化同断ナリ西化ハ干鱈化ハ半分程入
上出来一兩分程ナリ

荏油

荏一斗ニ油二升四合程取メ屋方へ糟
ヲ遣サハ價不入ナリ

胡蘿蔔

夏ノ土用少シ前ニ蒔クナリ

蠶豆

秋ノ土用前ニ蒔翌年ノ夏取ルナリ

黍

種ナリモロコシト云

中畑以下ニ作ル種ニ同シ春ノ土用明十
七八日過一畝ニ二合程蒔但シ一ト本ニ
二粒ツ、植ル後既肥ヲ置下肥二度掛ル
畑ノ畔ニ作ル所多シ秋ノ彼岸ニ取ルナ
リ

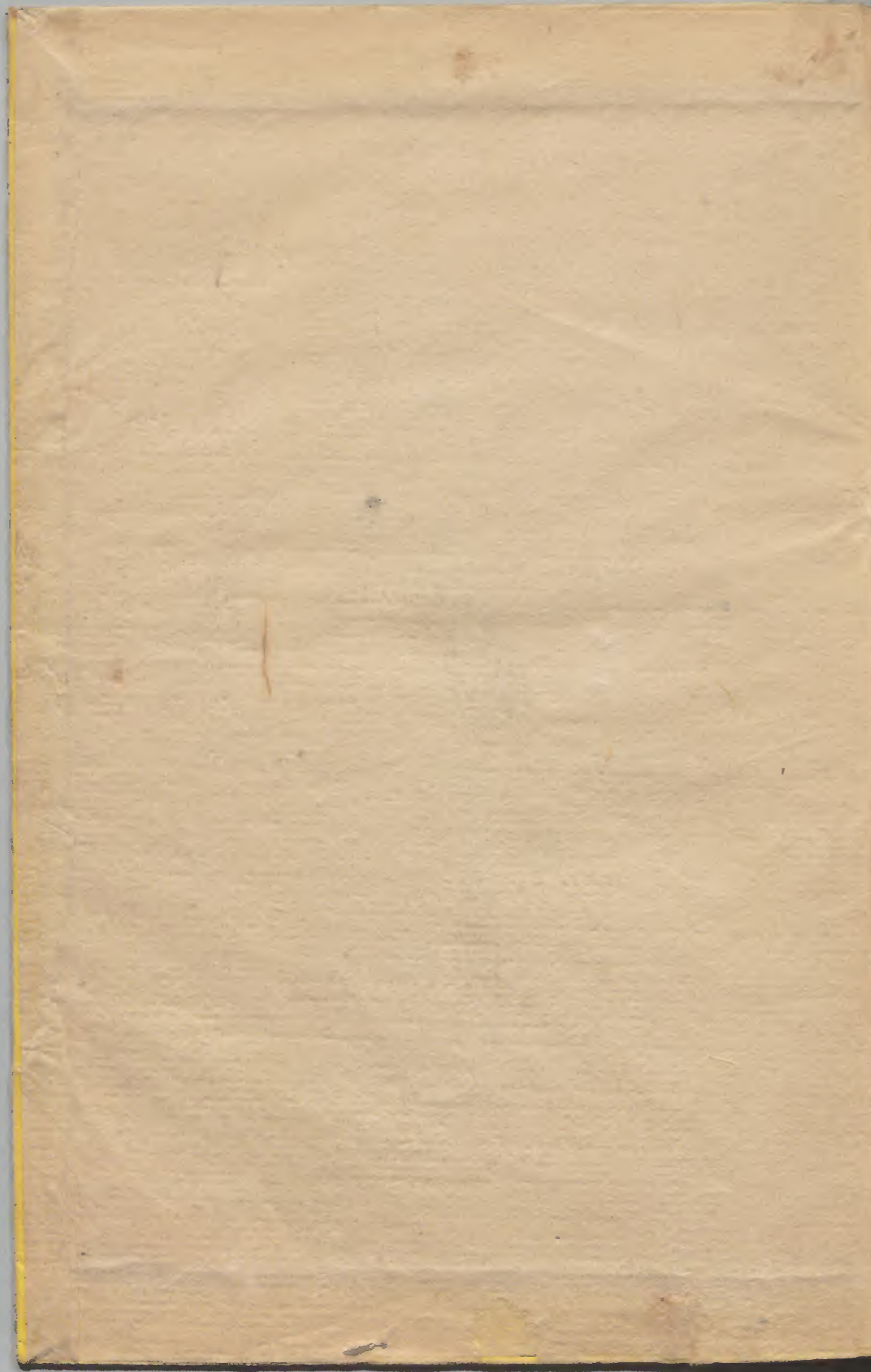
中畑 = 作ル諸事粟 = 同

紅花

右、外諸作物農業、仕方國所 = 依ル色
 々、遠有只今大概ヲ記、ニ其所 = 入テ其
 人 = 問フヘシ
 一、夫婦子共一兩人年寄親兩人持田地一所
 二、又程作ルモノナリ同畑三反歩田九反
 步程成ハ吉是ハ其村方田畑迂ニヨルハ
 ニ右反歩、外ハ雜作ナリ、小作ニテモ
 右同断是ハウナヒ持田地、方格別能キ
 様ニ候ヘトモ其代百姓ハ諸作ヨリ暮方



天遠ト水呑ハ諸役不掛暮方ト格別細力
ナリ
右ノ数ニ下女下男二人作田畑二町五六
段ヲテ能ナリ役人高十石ノ百姓人足二
十二人程馬八疋程一ケ年ニ勤ル是ハ定
助郷ハ往還ノ分六分地普請ノ方四分大
助郷ハ地普請ノ方六分往還ノ方四分十
リ



Very faint, illegible text is visible on the right page, appearing as ghosting or bleed-through from the reverse side of the leaf. The text is arranged in vertical columns, typical of traditional East Asian writing, but the characters are too light to be read accurately.

